

提言 タブーに捉われない道州制論議を 「東海州～コツコツ協和国～」の創造

現在の道州制の議論にいくつかのタブーがあります（意識する、しないは別として）。

- ・ 枠組み先行の議論はしない
- ・ 県域は割らない
- ・ 職員はリストラしない
- ・ 日本に地域性は薄い
- ・ 立法権限は分割しない …等々

これらの呪縛から逃れたとき、始めて自由な議論が進み、ホンモノの道州制の姿が見えてきます。それは、

「東海州～コツコツ協和国～」の創造

そこは、コツコツと正直に働く人々が、いきいきと暮らす「くに」です。東京の価値観ではなく、この地域に根付いた価値観が花開く「くに」です。

見せかけの流行に踊らず、虚業よりもものづくりを大切にし、正直者が損をせず、ゆとりをもち、「もったいない」という心で「もの」を大切にし、自然を愛し、打算ではなく心と心のつながりを大切にする人を育てる「くに」です。

主役は、もちろんそこに暮らす人、そしてその人たちが心の糸で紡ぐ地域社会です。

国、地方の権限争いではなく、大きな志をもち、国民のために日本を、地域をよくするという議論をしましょう。

ただ、残念ながらそういう人ばかりではなく、道州制を機に自らの権限を拡大しようとする人たちもいます。そういった人たちに対し、このような道州制議論は、うまく利用される恐れがあります。

しかし、それを恐れていては本当にいい国は実現しません。状況によっては、肉を切って骨を断つ覚悟も必要でしょう。

タブーなき道州制議論。これを愛知から発信していきましょう。

こうした基本的な考え方の上で、「東海州～コツコツ協和国～」を検討する際

の論点をいくつか例示すると、以下のとおりです。

- ・東海州の範囲はどこまで？
- ・東海州はどういった「くに」？
- ・東海州の歴史、文化等アイデンティティや「くに」づくりの基本理念は？
- ・地域課題・行政課題が共通する範囲（エリア）、すなわち解決のための最も適切な範囲は？
- ・住民が主役になった地域づくりのシステムや課題は？
- ・国、道州、市町村、民間（企業、団体、コミュニティ、県民等）など、各主体の役割分担のあり方は？
- ・東海州政府の組織・体制は？ …等々